世界基金
世界エイズ・結核・マラリア対策基金

日本と世界基金

2000年の沖縄サミットで一堂に会したG8首脳は、エイズ、結核、マラリアと戦うための活動資金を新設する必要性があることを確認しました。これを受けて、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）が設立されました。設立以降、日本と世界基金は共通の目標に向かう密接なパートナーとして協力を進めてきました。

2012年12月31日現在、世界基金に寄せられた主要ドナー国による拠出額		
1	米国	74億196万8639米ドル
2	フランス	32億5375万6898米ドル
3	イギリス	18億7481万9216米ドル
4	ドイツ	17億6760万9890米ドル
5	日本	17億4492万1914米ドル
6	欧州委員会	14億7639万7476米ドル
7	カナダ	12億388万1352米ドル
8	イタリア	10億826万873米ドル
9	オランダ	7億3903万5557米ドル
10	スウェーデン	7億3384万3456米ドル

日本は世界基金理事会に議席を持ち、重要な監督の役割を担うと同時に、戦略投資効果委員会への参加を通じて政策策定に寄与しています。

更に、日本の国際協力機構(JICA)はアフリカの34カ国において技術協力およびプログラム実施者に対する能力強化を行い、世界基金と密接に協力し合っています。

世界基金設立から11年、日本はこれら三大感染症と戦うために、17.4億米ドル（1830億円）を拠出し、主要ドナー国となっています。

これらの支援をもとに、アフリカの多くの国々でエイズ、結核およびマラリア対策が強化されました。結果は目を見張るもので、世界基金がサポートするプログラムによって、2012年末までに累計2900万人のマラリア患者が治療を受けました（2011年末の数値から26%の増加、このうち85%がサハラ以南のアフリカの国々での治療支援実績）。エイズの治療においては、世界基金との協力により、アフリカの政府やその他の開発パートナーは、アフリカにおける抗レトロウィルス(ARV)治療を受けている患者数を11年の間で5万人から600万人以上に増やしました。

© 世界基金 / JONX PILLEMER

タンザニア、TEMEKE病院のHIV外来で診察の待ち時間に子供に服を着せる母親。140万人の人々がHIVに感染していると推定されるこの国で世界基金が支援するプログラムの目的は、疾病のさらなる蔓延を防ぐだけでなく、HIV感染者の生活の質も改善させることです。

また、結核撲滅に対しても大きな進歩が見られ、過去10年間でアフリカ地域の1250万人の結核患者が治療を受けました。同じ期間、結核患者のうちHIV抗体検査を受けた患者の比率が2%から70%まで増え、HIVと結核に重複感染した患者に対するARV治療も0%から40%まで増加しました。

日本の支援により、世界基金はタンザニア、ミャンマーやエチオピアを含む多くの国々でプログラムを支援してきました。

例えば、マラリア対策資金の55%を世界基金から受け取っているタンザニアはマラリア撲滅に成功した良い例で、これらの支援により以下のような成果が確認されています：

- 殺虫剤浸潤蚊張（少なくとも1枚）の一般家庭における普及率は2004年の23%から2010年の63%に増加
- 2010年に、タンザニア国内の妊娠中の女性の56%と5歳以下の子供の65%が殺虫剤処理された蚊張の中で就寝していると報告
- 5歳未満児死亡率（あらゆる原因による）は1999年から2010年の間に45%削減。1000人あたり5歳未満児死亡数は1999年の148人から2010年の81人に減少

これらの成功の1つの要因はアフリカにおけるマラリア撲滅に一役買った住友化学の貢献です。殺虫剤浸潤蚊張の革新的な技術をタンザニアの工場に移し、現地住民を雇用し、アフリカの地域住民が命を守る蚊張を容易に入手できるようになりました。

ミャンマーでは、世界基金の支援によるプログラムを通して3万9000人のHIV感染者がARV治療を受けており、13万症例の新規結核感染者が診断・治療を受けています。更に、世界基金の支援により殺虫剤浸潤蚊張を65万枚以上配布しました。また世界基金は現在ミャンマー国内における50ケ所の医薬品供給倉庫の改築を支援しており、その結果国内の保健医療施設に対する適時かつ効率的な医薬品配給システムが構築されることが期待されます。

エチオピアにおける世界基金による投資は、政府による保健医療インフラの再建を可能にしました。過去10年間、15000棟もの地域保健医療施設が国内に新築あるいは改築され、また3万人以上のコミュニティ保健従事者が基本的な保健サービスを提供できるよう訓練を受けました。同プログラムにより国内のほとんどの地域で保健医療サービスが提供されるようになり、エチオピア国内のHIV感染者のうち27万人以上がARV治療を受けています。

世界基金についてもっと知ろう

世界基金はHIV/エイズ、結核およびマラリアの予防や治療に資金を集め、途上国に供与することに特化した国際資金供与機関です。人命を救うために世界の資金を投資する使命を持つ世界基金は、各国政府、市民社会、民間企業やコミュニティとの間のパートナーシップを、三大感染症に打ち勝つ社会をつくる最も効果的な方法として強化推進しています。

低中所得国に資金を供与するにあたり、世界基金の革新的な投資方法は受益国の主体性および実績に基づく資金供与に依るものです。この投資方法は受益国が自ら優先課題に対する独自のプログラムを策定することを可能にします。

2002年の創立以来、世界基金は151カ国で1000以上ものプログラムを支援し、420万人のHIV感染者に対するARV治療、970万人の結核患者の治療、およびマラリア予防のために3億1千万枚の殺虫剤浸潤蚊張を配布してきました。2002年の設立以来、世界基金は様々なパートナーとともに870万人以上の人命を救ってきました。

エイズ、結核およびマラリアとの戦いに勝つ

10年前、世界はエイズ、結核およびマラリアとの戦いに苦戦していました。主な予防や治療手段へのアクセスも限られていました。アフリカでARV治療を受けていたのはわずか5万人。結核の疾病負担が最も高い22カ国における患者発見率は43%にすぎず、治療の成功率は67%でした。サハラ以南のアフリカ地域では、殺虫剤処理された蚊張の普及率が一般家庭では5%以下でした。これらの三大感染症による経済的および人的被害は甚大なものでした。

しかし、今日、事情は異なります。低中所得国での政府及びコミュニティによる保健医療プログラムは、これらの疾病に対するかつてない規模の対策に乗り出しました。2011年に世界中でARV治療を受けているHIV感染者数は840万人に増加。治療を必要としている人たちのうち60%以上が治療を受けている国々は2010年には21カ国に達しています。同じ年に、結核の患者発見率は65%に上り、治療の成功率は87%になりました。アフリカでは、殺虫剤浸潤蚊張の普及率が45%にまで上昇し、60%以上の普及率が13カ国で報告されています。

更に2011年には2001年と比べて世界中で新たなHIV感染が70万件以上減ったことが分かりました。過去6年間でアフリカにおけるエイズ関連の死亡者数が3分の1減少しました。結核の発病率は、2004年以来、アフリカの一部の国々を除き世界的に減少傾向にあります。マラリアを撲滅するための努力は世界のWHO地域で成果を挙げており、WHOヨーロッパ地域では今後5年間に地域内の全ての国々からマラリアを撲滅しようとしています。

© 世界基金 / JOHN RAE

医療従事者が人々の医療へのアクセスを拡大させようというエチオピアのイニシアチブの根幹を形成しています。世界基金の支援により、共同体の中でHIV、結核、マラリアの治療を提供できるよう訓練を受け、医薬品を入手しています。

このような成果は十年前には考えられなかったことです。

資金の有効活用

世界の多くの国々が長引く財政危機と戦う中、今まで築いてきた国際保健分野での進歩が陰りを見せるだけでなく、後退する危機にさえ脅かされています。援助国では保健分野への支援削減が及ぼすリスクや代償について十分理解しているものの、支援した資金の有効活用をより明確に立証することが求められています。それに応じて世界基金は、効率性を高め、より戦略的に投資を行い、効果の最大化を図り、かつ受益国における既存プログラムのギャップを埋めるよう変革してきました。

2012年に世界基金は大規模な組織再編成を行い、急速に変化する世界に適応するよう構造とビジネス手法を改善しました。この変革において、職員の5分の1を抱える「ハイ・インパクト」チームを結成し、世界基金およびパートナーが最大のインパクト（効果）を上げられる国々へのより効果的な資金供与を行っています。これらの国々、アフリカ及びアジアの20カ国は世界におけるHIV、結核およびマラリアの疾病負担の70%以上を占めています。

最近の再編成により、世界基金による資金の有効活用が著しく向上しました。100万米ドルの資金で、1万人の患者に対するARVを購入できる、あるいは喀痰陽性結核患者を最大1万人検出し治療することができる、またはマラリア患者11万人を治療することができます。

© 世界基金 / JOHN RAE

インドネシア中部カリマンタンの村で実施されたマラリア血液検査を受ける村人。村は金鉱山のそばにあり、鉱山労働者たちは、ジャングル付近にテントで寝泊まりするため、マラリアに特に感染しやすく、近隣村落に疾病を蔓延させる恐れがあります。世界基金は、インドネシアのこの地域におけるマラリア管理のために、資金調達だけでなく、検査、治療、およびマラリア予防のために殺虫剤処理された蚊帳の配布にも取り組んできました。

新規資金供与モデル

世界基金では、より戦略的に投資でき、より大きな効果を達成し、案件実施者とパートナーたちがより有効に活動できるような新規資金供与モデルを先般導入しました。

また同モデルは、HIV/エイズ、結核およびマラリアの予防と治療を効果的に行うために、各国がどれだけの資金を必要としているかを明確に示すよう推奨しています。

世界基金の再構築の重要な一歩である同新規モデルは、一年に一度の締切日を設けてプロポーザルを募集する従来の「ラウンド（案件募集）方式」に代わるものです。

2013年から2014年の同新規資金供与モデルの移行期間に対して、最高19億米ドルが準備されています。完全な新規モデルによる資金供与の実施は2014年初頭に始まり、2014年～2016年期の資金を各国に供与します。

歴史的な機会

これらの三大感染症を制御する歴史的なチャンスが待ち受けています。これによって将来的に、何百万人もの人生が変わります。ここ数年における科学の進歩とこれらの感染症の撲滅への惜しまぬ努力によって、これらの病気に打ち勝つことができるということは明らかです。我々が使命の焦点を明確にし、世界市民としての情熱と思いやりを持ちながら責任を共有し、協力し合えば、これらの三大感染症が公衆衛生への大いなる脅威でなくなる日が来ることでしょう。

2013年5月

エイズ･結核･マラリアと闘うための世界基金

Chemin de Blandonnet 8
1214 Vernier
Geneva, Switzerland
Tel: +41 58 791 1700
Fax: +41 58 791 1701

www.theglobalfund.org

978-92-9224-379-1

デザイン制作者 www.crabtreecompany.com